

14 ('05 大阪大)

【難易度】…標準

正の整数 n に対して

$$S(n) = \sum_{p=1}^{2n} \frac{(-1)^{p-1}}{p}, \quad T(n) = \sum_{q=1}^n \frac{1}{n+q}$$

とおく. 等式 $S(n) = T(n)$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) が成り立つことを, 数学的帰納法を用いて示せ.

【テーマ】: 数学的帰納法

方針

 $n = k + 1$ のときの和の計算方法を工夫する必要があります.

解答 【証明】

(i) $n = 1$ のとき,

$$S(1) = \sum_{p=1}^2 \frac{(-1)^{p-1}}{p} = 1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

$$T(1) = \sum_{q=1}^1 \frac{1}{1+q} = \frac{1}{2}$$

よって, $n = 1$ のとき成り立つ.(ii) $n = k$ のとき, $S(k) = T(k)$ が成り立つと仮定する.

$$\begin{aligned} S(k+1) &= \sum_{p=1}^{2(k+1)} \frac{(-1)^{p-1}}{p} \\ &= \sum_{p=1}^{2k} \frac{(-1)^{p-1}}{p} + \frac{(-1)^{2k}}{2k+1} + \frac{(-1)^{2k+1}}{2k+2} \\ &= \sum_{q=1}^k \frac{1}{k+q} + \frac{1}{2k+1} - \frac{1}{2k+2} \quad (\because S(k) = T(k)) \\ &= \sum_{q=0}^{k-1} \frac{1}{k+1+q} + \frac{1}{2k+1} - \frac{1}{2k+2} \\ &= \left(\sum_{q=1}^{k+1} \frac{1}{k+1+q} + \frac{1}{k+1} - \frac{1}{2k+1} - \frac{1}{2k+2} \right) + \frac{1}{2k+1} - \frac{1}{2k+2} \\ &= \sum_{q=1}^{k+1} \frac{1}{k+1+q} = T(k+1) \end{aligned}$$

よって, $n = k + 1$ のときも成り立つ.以上より, すべての自然数 n に対して $S(k) = T(k)$ が成り立つことが示された.

(証明終)

解説

 $n = k + 1$ のときを示す際は, 和の計算をうまく行う必要があります. 解答では,

$$\sum_{q=1}^k \frac{1}{k+q} \quad \text{から} \quad \sum_{q=1}^{k+1} \frac{1}{k+1+q}$$

の形を作っています. これは, 一度和を書き下して一般項の形を取り直します. 慣れればそれほど難しくありませんが, 慣れないうちは変形に苦労するかもしれません.